

## 自己評価報告書

平成23年 5月11日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20530131

研究課題名(和文)

NATO、EU拡大後の南東欧の地域協力の展開と旧ユーゴスラヴィア

研究課題名(英文) Development of the Regional Cooperation in Southeast Europe and the former Yugoslavia after NATO and the EU Enlargement

研究代表者

定形 衛 (SADAKATA MAMORU)

名古屋大学・法学研究科・教授

研究者番号：20178693

研究分野：社会科学(国際政治学)

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：NATO、EU、南東欧、地域協力、旧ユーゴスラヴィア

## 1. 研究計画の概要

(1) EU、NATOの東方拡大と南東欧協力の進展と旧ユーゴスラヴィアの位置。旧ユーゴスラヴィア紛争終結後の南東欧諸国のヨーロッパ政治への参入とその前提としての地域協力の進展についての考察。

(2) 冷戦終結後、および旧ユーゴスラヴィア紛争終結後の南東欧における地政学の変容と地域主義の課題。旧ユーゴスラヴィアを西バルカンと位置づけるヨーロッパ政治のなかで、南東欧の地政学的意味の変容が地域協力にあたる政治力学の考察。

(3) 南東欧の地域主義、その境界線認識における構成主義アプローチの理論とその適応。南東欧の範囲、その境界の設定に関する構成主義的認識が地域協力の進展に及ぼす政治地理学的、政治経済的意味についての考察。

## 2. 研究の進捗状況

(1) EUとNATOの拡大と南東欧諸国の対応については、2008年度においてクロアチアの国際関係研究所、セルビアの国際政治経済研究所において研究報告をおこない、レビューをうけている。また、アルバニアの国際関係研究所でもNATO加盟について議論をおこなった。そこでは南東欧地域に対する欧米諸国、EU、NATOといった国際機関による、バルカン、南東欧、西バルカン、といった呼称の操作がみられた。言い換えれば、それはこの地域に対するヨーロッパの「他者」意識を濃厚に反映するものであり、冷戦後、紛争後のこの地域の自立と協力の促

進ではなく、地域の分断をもたらしている点が明確となっている。また、南東欧の諸国もこうしたヨーロッパ政治に翻弄されて、EU、NATOへの加盟競争を相互に顕在化させ、協力の進展を阻んでいることが明らかとなっている。

(2) 冷戦終結後の南東欧諸国では、ヨーロッパ政治への接近のなかで、各国の地政学的意義が重要な対外政策の要因となってきた。旧ユーゴスラヴィアを中心として紛争後の民主化、市場経済への離陸が円滑に進展しない西バルカンは、南東欧の地域協力の推進によるこうした問題の解決よりも、各国の個別的な利益によるヨーロッパ政治への接近と経済の発展、政治的安定を画策しており、地域としての一体性を確保できない状況である。こうした課題の克服なしに地域協力は現実性をもたないのである。

(3) 南東欧地域協力の進展には地域としてのアイデンティティの確保が重要であり、さらに歴史的、政治的な分断線、断層線となってきた境界線をいかにして乗り越えるかが課題となっている。これらの研究では、近年のヨーロッパにおける政治地理学における構成主義的アプローチが南東欧の課題解決に大きな示唆を与えていることが注目される。以上の3点が現在までの研究の進捗状況のまとめである。

## 3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。その理由としては、当初のEU、NATOの東方拡大と南東欧諸国のこれらの国際機関への加盟、また加盟のコンディショナリティとしての地域協力を焦点を据え、とりわけ旧

ユーゴスラヴィア紛争後の当該地域における政治力学の解明と欧米の南東欧（バルカン）認識の負の側面を焦点に据えていた。しかし、研究の過程で、これらの視点に加えて、南東欧諸国の対外政策の地政学的分析、さらにはヨーロッパの政治地理学の成果である、構成主義的分析の視点を獲得し、当初の射程をこえた研究の広がりを獲得できたと考えている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

23年度が最終年度であるが、これまでの研究の成果を踏まえて今後は、南東欧における地域協力の課題と将来の展望について、国際関係論、国際政治史、政治地理学、地政学など広範囲からのアプローチを含んだ研究成果を公表したいと考えている。そこでは、紛争後の地域協力、ヨーロッパの周辺地域の協力のありようとその課題といった視点にとどまらず、近代の政治外交史をふまえたうえでの政治経済的、政治地理学的接近が求められていると考えている。

#### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

(1) Mamoru Sadakata, “New Border Studies and Its Implications in Southeast Europe”, *Liccosec*(Osaka University), Vol.9, 2011, 133-142. 査読無

(2) Mamoru Sadakata, “Serbian Diplomacy in the Balkans”, *Liccosec*(Osaka University), Vol.7, 2009, 20-26. 査読無

(3) Mamoru Sadakata, ” Croatia between the Euro-Atlantic Partnership and the SEE Cooperation”, *Liccosec*(Osaka University) ,Vol.6, 2009, 74-79. 査読無

〔図書〕（計2件）

(1) Mamoru Sadakata, Serbia in

Contemporary Geostrategic Surroundings, Institute of International Politics and Economics (Belgrade), 2010, 41-47.

(2) Mamoru Sadakata, Japan and Serbia: Contemporary Issues, Institute of International Politics and Economics (Belgrade), 2009, 105-111.